



2017年10月31日
男 鹿 市
J R 東 日 本 秋 田 支 社

男鹿線沿線の観光活性化に向けて 男鹿駅整備等の取組みに着手します

男鹿線は昨年12月に開業100周年を迎え、また今年3月にはJR東日本管内初の交流蓄電池車「ACCUM」が運転を開始し、沿線にはJR秋田支社の天王・追分太陽電池発電所をはじめ、風力発電所等多くのエネルギー施設が集積しており、男鹿線を「観光」と「学習体験線区」としての特色を強化し観光活性化に取り組むこととしております。

この度、JR秋田支社及び男鹿市では、来年7月オープンに向けて男鹿駅南側用地にて建設が進められている（仮称）男鹿市複合観光施設にあわせて、地域と連携した駅周辺の活性化を推進するため、男鹿駅整備等を行うこととしましたのでお知らせいたします。

男鹿駅について、現在の駅舎から終点側（南側）に駅を移転し整備することで、スムーズに乗降ができ、安全とサービスの向上が図られます。駅舎には屋上テラスを設置し、複合観光施設と連携した男鹿観光の新たな拠点化を目指します。

あわせて「学習体験線区」の位置づけの一環として、新たに整備する男鹿駅は省エネ等を推進する駅として、CO₂の排出量削減を目指します。

さらに今回の男鹿市複合観光施設及び男鹿駅の整備にあわせて、沿線自治体とJR秋田支社で構成する「男鹿線沿線観光利用促進連絡会議」内に「男鹿観光推進ワーキンググループ」を新たに立ち上げ、更なる沿線活性化に向けて取組みを推進していきます。

1 男鹿駅整備について（別紙1参照）

- ・男鹿駅は築78年が経過し、建物の老朽化が進行しています。また、現在の乗降ホームはこ線橋もなく旅客通路は線路横断が必要であり、キャスター付バックなどでは通行しにくい施設となっております。
- ・現在の駅舎から終点側（南側）に駅を移転し整備することで、ホームと駅コンコースが平面的につながるようになり、スムーズな乗降が確保でき、安全とサービスの向上が図られます。

建物規模：約235㎡（観光案内所含む）

移設時期：2018年7月目途

完成イメージ：別紙参照

デザインコンセプト：屋上テラスのある駅「寒風山を眺望できるパノラマビュー」

2 省エネ等の推進について（別紙2参照）

- ・ 駅のCO₂排出量削減に向け、LED照明等を導入します。
- ・ 今後、創エネルギーや「ACCUM」の受電設備の見学などエコ学習、実感できる設備についても検討していきます。

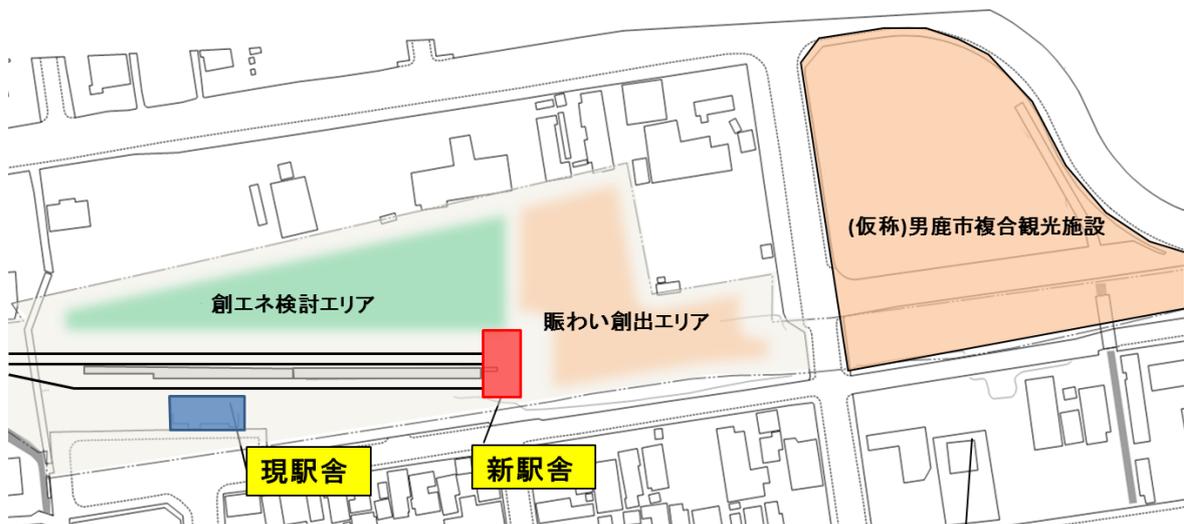
3 男鹿線沿線活性化に向けた取組み（別紙3参照）

- ・ 沿線自治体とJR秋田支社で構成される「男鹿線観光利用促進連絡会議」は、2015年に観光利用の促進による男鹿線の活性化目的に発足して以降、一定の成果がありました。当初の目的である男鹿線の活性化にあたっては、沿線の魅力発信や二次交通の整備等について、より一層の取組みの強化が必要となっております。
- ・ 今回、同会議の名称を「男鹿線沿線観光利用促進連絡会議」に変更し、沿線の観光利用促進という当初の目的を明確化するとともに、「男鹿観光推進ワーキンググループ」を新たに立ち上げて、男鹿市複合観光施設を中心とした男鹿駅周辺の観光拠点化に向けた取組み（魅力発信や二次交通の整備等）を強力に推進するほか、自治体外の皆様の知見を活かすことによって、同会議の活動をさらに強化していきます。



（仮称）男鹿市複合観光施設完成イメージ

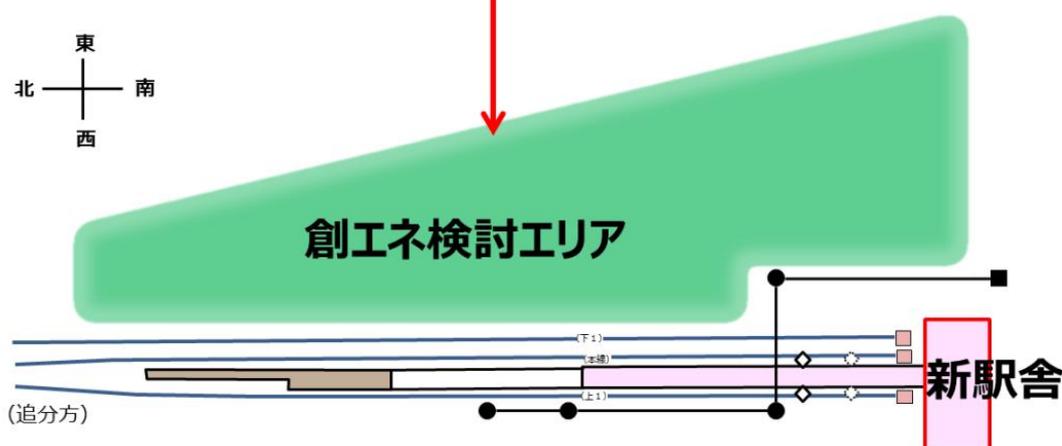
◆位置図



◆イメージパース

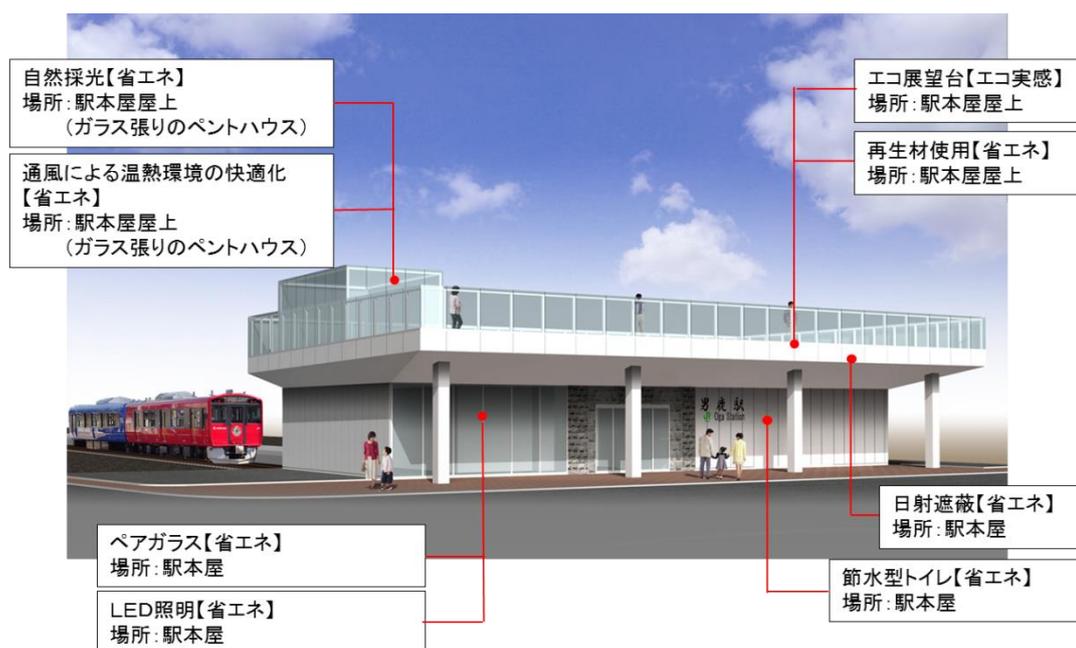


◆創エネ検討メニューについて



※太陽パネルおよび小型風車設置イメージ

新駅舎の省エネ推進検討（案）



◆男鹿線沿線観光利用促進連絡会議概要

・連絡会議構成員

男鹿市、秋田市、潟上市、秋田地域振興局、秋田県、JR秋田支社

・男鹿観光推進ワーキンググループ（WG）

男鹿市複合観光施設を中心とした男鹿駅周辺の観光拠点化に向けた取組み（魅力発信や二次交通等）について検討

・ワーキンググループ構成員

会議構成員（任意参加）に加えて、一般の方も含めた自治体外関係者に参加要請

・今後の予定

2017年11月中にも、リニューアル後初の会議開催を予定。

◆男鹿線沿線活性化に向けた取組み（イメージ）

